

地域運動部活動推進事業 現地視察報告

埼玉県教育局県立学校部保健体育課

- 1 目的 令和3年11月から活動を開始した白岡市地域部活動の現地での活動を広く公開することで、学校、地域とスポーツ・文化活動の連携を促進するとともに、現状の課題等を共通認識することを目的とする。
- 2 日時
令和3年11月27日（土）9：00～12：00
- 3 場所
白岡市立南中学校
- 4 活動部活動
野球部 女子ソフトテニス部 吹奏楽部
- 5 出席者
白岡市：藤井市長、長島教育長、村松参事兼教育指導課長、石島指導主事
白岡市議（齋藤市議、野々口市議）、埼玉県 PTA 連合柳副会長（篠津小学校 PTA 会長）
ASC（再々委託先）：明野会長、神田副会長、その他役員6名程度
埼玉新聞：保坂記者
保健体育課：内藤指導主事、黒澤主事
義務教育指導課：大木指導主事、采澤指導主事
- 6 視察内容
○ASC ●埼玉県
●今回の事業（地域部活動）について、どのような考えをもって事業を実施していくか。
○生徒・学校に寄り添うことを主旨として、委託を受けた今年度は地域に部活動が移行する足掛かりとして実施していきたい。
●本日は何回目の地域部活動になるのか。
○本日実施している競技は2回目の活動である。
●事業を開始するに当たり、保護者の理解はどのような状況か。
○10月に白岡市から公募の結果として委託を受け、11月からの事業開始に向けて1か月以内に事業の内容をほとんど知らない保護者に説明を行う必要があった。費用負担については、今年度保護者の負担は無いことを説明した。しかし、費用負担は大きな問題

となることから、次年度以降は費用負担が発生する可能性があることも丁寧に説明を行った。

保護者からは説明会が終了した後に問い合わせが複数寄せられたが、その内容は子供たちの内申点について、部活動が加味されなくなるのではないかと懸念であった。

また、子どもが怪我をしたときの責任は学校に生じるのではなく、我々ASCに生じることも説明を行った。

●子供たちは今回の事業についてどの程度認識しているのか。

○現在は、部活動の継続として認識している。生徒には、保護者や顧問教員から説明をしていただいた。生徒が地域部活動に参加する意思の確認として入会書の提出を求めた。基本的に、地域部活動に移行した部活動に所属していた生徒は入会した。

○保護者や生徒について、今年度からの実践研究過程において平日の部活動と休日の地域部活動が異なるという意識改革を進めていく必要があると考えている。

●地域部活動に移行した部の顧問教員の理解はどうか。

○十分に事業の内容を説明して御理解いただき、顧問教員の意思を確認した上で、意欲的に指導していただいている。兼職兼業という形で実施している。

●地域部活動の指導者は現状で何人程度いるのか。

○20人程度である。現在も、指導者の募集は随時受け付けている。

●指導者について、教員以外の指導者はどのような人材を活用しているのか。

○部活動をもともと指導していたボランティア指導員である。報償費対応で指導を依頼していた人材である。

●費用負担について、来年度から保護者に負担がかかる可能性があることを説明しているとお伺いしたが、他にになにか働きかけていることはあるか。

○市長に対して、経済面が苦しい家庭にも地域部活動に参加していただけるように補助金等を市で負担できないかという打診を行っている。

○白岡市 ●埼玉県

●吹奏楽部の指導者2人は教員か。自らやりたいと申し出たのか。

○教員である。土日の指導を希望しており、ASCに入会する形で指導を行っている。

●地域部活動になる前後で、部員の様子に変化はあるか。

○変化はほとんどないと思われる。これまでの顧問が休日に指導しており、生徒もスムーズに移行できている。部員が増えたり、減ったりということもない。

●野球部の指導者は教員か。

○一人はこれまでの外部指導者であり、もう一人は教員である。

●教員が来ているが、教員は休みを取るのではなく、指導したいと考えているのか。

○教員の意思で指導したいと考えており、ASCに入会し、指導者となっている。また、野球部は蓮田南中と合同チームを組んで活動している。本校は地域部活動、蓮田市は部活動として活動している。

●ガイドラインは遵守できているのか。

- 白岡市のガイドラインでは、部活動と地域部活動を合算して1週間のうち2日以上を休養日としている。ただし、他の部活動については、土日のどちらかを休養日としている。
- 地域部活動は土日の両方活動できるということか。
- 地域部活動を実施するにあたり、土日のどちらか一日では、指導者の指導が浸透しづらく、生徒との関係が深まらないなどの意見があったためである。土日両方活動した場合は、平日に2日間休養日を取るようになっている。
- そのことについて、保護者はどんな反応か。
- 保護者の多くは土日の活動を望んでいる。もっとやってほしいという意見が多い。家でゲームをしているより、運動させてほしいという声もある。
- ソフトテニス部の指導者は教員か。
- 1人は教員、1人はこれまで外部指導者だった方である。2人ともASCに入会し指導している。子供にとっては、これまでの部活動と何も変わっていないと感じていると思う。市としても、できるだけ現場に負担をかけないことを念頭に取り組んでいる。
- 指導者への報酬はいつ、どのタイミングで払うのか。
- 11月分の報酬は12月上旬に振り込むこととしている。1か月分の活動実績報告書を提出してもらおう。
- AEDはあるのか。
- 学校のAEDを使用する。
- 学校施設の利用は、許可を取っているのか。
- 地域部活動を優先して行えるよう校長と調整済みである。

※他にASC副会長から以下の話を伺った。

教員は、身を粉にして指導してくれているが、教員にも家庭があると思う。教員の働き方改革の観点からも、部活動改革は必要である。しかし、この事業は国からやらされている感覚が強いことが不満である。学校の教員から部活動改革の声が上がってくるのであれば、地域はもっと協力的になれると思う。

ASCは元PTA役員など有志が集まっており、現在14人である。今後も続けていけるか不安であるが、クラウドファンディング(寄付)や地元企業からの協賛も視野に入れ、指導者への報酬や保険料などを確保していくことも考えている。

※白岡市教育長挨拶(視察終了時)

今回の地域部活動推進事業は、教員の働き方改革として必要である。子供たちにとっては、現在の部活動及び今回の地域部活動どちらも大事なことである。地域部活動は始まったばかりであるため、本日荒削りの部分を観ていただいた。今後も皆様には御指導いただきたい。